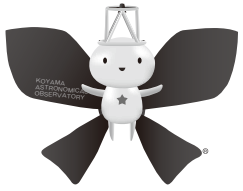
京都産業大学　神山天文台

KAO NEWS

Koyamatenmondai-News

2025 10月



神山天文台マスコットキャラクター
ほしみ～るちゃん ®

Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 休
5 休	6 中秋の名月	7	8	9	10	11 教育懇談会(自由見学) 13:00-17:00
12 休	13 休 スポーツの日	14	15	16	17	18
19 休	20	21	22	23	24	25 休
26 休	27	28	29	30	31	

施設見学　9：00～16：30
土曜日は天体観望会実施日のみ 14：30～観望会終了まで

天体観望会 18：00～20：00
（定員あり / 要予約）

休 休館日

月の形（満月・新月・半月および観望会実施日）

事務室閉室日
（問い合わせ等対応不可）

施設見学

1階展示フロアでは常設展示、また、3階では荒木望遠鏡（国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡）の見学が可能です。

天体観望会

荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。
また、宇宙の3D 映像上映会を開催します。
（コンテンツは予告なく変更する場合があります ）

よくある質問？

観望会でよく聞かれる質問にお答えします★

？ なぜドームに暖房を入れないの？

ドーム内に暖房を入れると、暖かい空気が冷たい上空へ上昇するため、かげろうのような空気の揺らぎが発生します。かげろうを通して見る星は、ゆらゆらと揺らぎ、星の像がよく見えなくなります。そのため、寒い日も、ドーム内に暖房を入れることはできません。また、お昼間に暖まった空気が溜まらないように、あらかじめ観測前にはドームスリットや小窓を開け、外気となじませています。

？ 土星のような惑星は、毎年見える時期は変わらないの？

縞模様やガリレオ衛星が特徴の木星や、環が美しい土星といった惑星は、毎年少しずつ、見える時期が異なります。特に、金星や火星といった、地球に近い惑星ほど動きは大きくなります。星座早見盤にも載っていませんので、天文年鑑などの手帳や天文に関する雑誌（天文台にもあります）、インターネットなどで調べてみましょう！

？ 夜空に見える天体、どのくらい離れているの？

夜空を見上げると、どの星も、同じところにあるように見えますね。しかし、地球からの距離はそれぞれちがいます。
地球にいちばん近いのは「月」です。地球から約 38 万 km ！月と同じ大きさに見える「太陽」までは、約 1 億 5000 万 km です。目で見える星（恒星）は、数光年～数千光年（1 光年＝光が 1 年かけて進む距離＝約９兆４６００億 km!）の範囲にあります。わたしたちが目で見ることのできる一番遠い天体は、「アンドロメダ銀河」です。距離はおよそ 230 万光年！夜空で輝くほかの星よりも、ずっとはなれています。

第13回
京都・大学ミュージアム連携

スタンプラリー

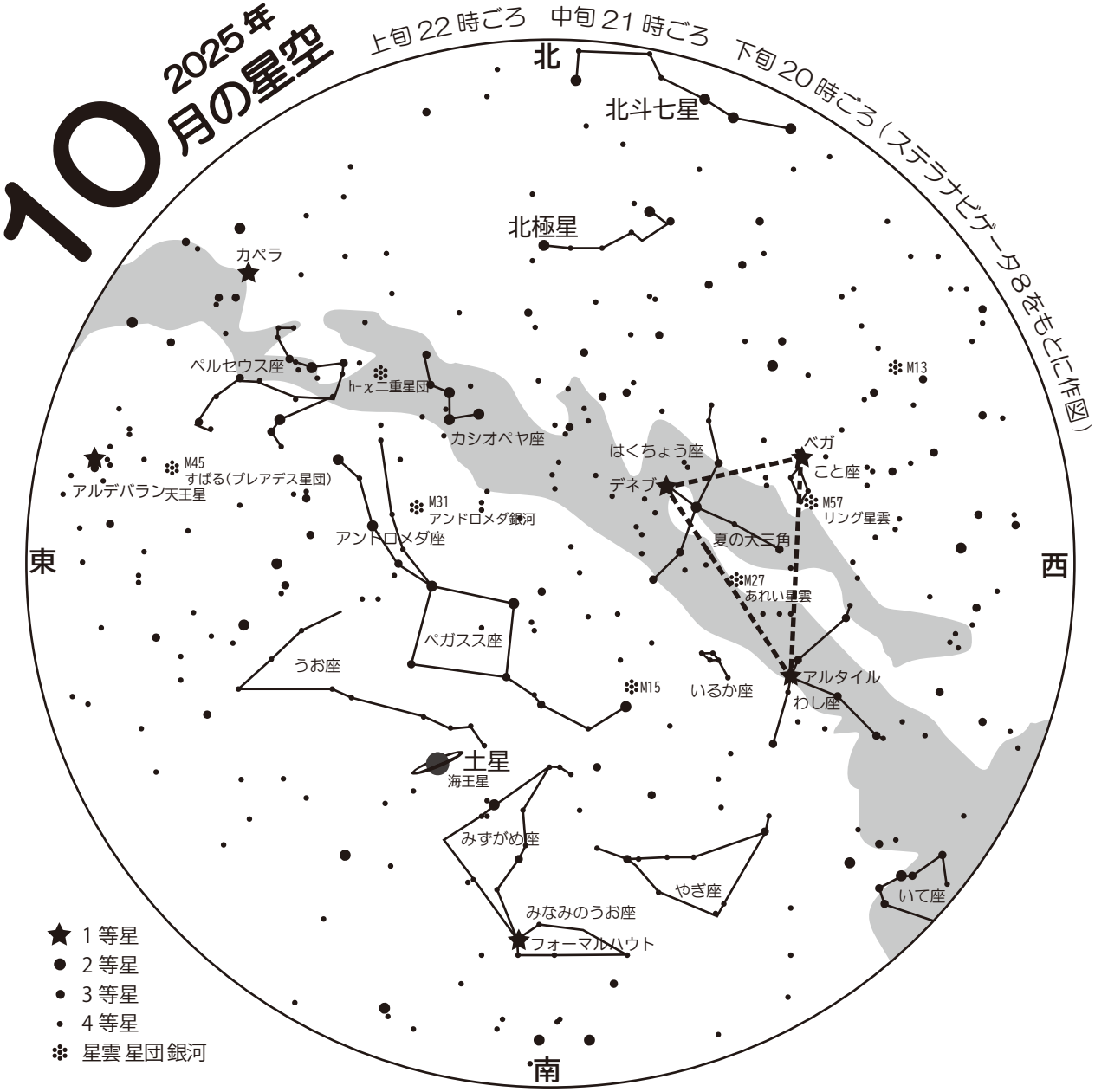
開催期間
2025 年 8 月 30 日（土）～
2026 年 3 月 16 日（月）

「京都・大学ミュージアム連携」が主催の、京都市内外の 16 大学のミュージアムによるスタンプラリーに、今年も神山天文台が参加しています！
各ミュージアムで展覧会を見学してスタンプを集めると、抽選で素敵なミュージアムグッズなどがもらえるので、ぜひご参加ください！

他施設の情報、スタンプラリーについては、パンフレット、京都・大学ミュージアム連携 Web ページ https://univ-museum-kyoto.com/event14/event-250830/ をご覧ください。

発行 京都産業大学 神山天文台
〒603-8555　京都市北区上賀茂本山
☎075-705-3001
https://www.kyoto-su.ac.jp/observatory/

【公式 SNS】
𝕏（旧 Twitter）@KSU_KoyamaObs
Instagram　koyama_tenmondai



レモン彗星が10月地球に最接近

レモン彗星（C/2025 A6）は米・レモン山天文台が 2025 年 1 月に発見した非周期彗星です。日本を含む北半球では 10 月中旬から夕方の西の空で見つけやすくなり、10 月末頃には 4 等級前後まで明るくなる見込みです。暗い場所なら肉眼で見える可能性もありますが、双眼鏡や望遠鏡を使うと尾や淡い緑色のコマが捉えやすくなります。星図アプリで位置を確認し、月明かりや街灯を避け、低空の透明度が高い夜を選ぶと見やすいです。尾の形状やコマの大きさは日ごとに代わっていきますので、ぜひスケッチをしながら観測してみましょう。

2025 年 10 月 見ごろの天体

★土星（どせい）：Saturn

太陽系の惑星で木星に次いで２番目に大きい土星は、大きな環が特徴的なとても美しい天体です。南の空で黄色っぽく輝き、望遠鏡を使うと環に加えて土星の周りを回る衛星も見ることができます。土星の環は、主に直径数ｃｍから数mの氷の粒の集まりで、ところどころに隙間が見られます。環の厚みは数 10mから数 100mほどしかありません。

★二重星（にじゅうせい）：Double star

二重星は、肉眼では１つの星ですが、望遠鏡で見ると２つの星に見える星です。はくちょう座のくちばしに輝くアルビレオや、アンドロメダ座のガンマ星（アルマク）も色の対比が美しい二重星です。２つの星の色の違いは、星の表面温度の違いを表しており、青い方が温度が高い星です。

★球状星団（きゅうじょうせいだん）：Globular cluster

ペガスス座のM15、みずがめ座のM２、ヘルクレス座の M13 などの球状星団が見られる季節です。球状星団は、数十万の恒星の集まりです。夜空が暗く澄んでいる晩に荒木望遠鏡をのぞくと、最初はぼんやりとしか見えないかもしれませんが、目が慣れると、まるで黒い画用紙の上に白い砂粒をまいたように見える姿は圧巻です。

★銀河（ぎんが）：Galaxy

太陽のような星が数千億個集まった星の大集団が銀河です。私たちの太陽系も、「天の川銀河」と呼ばれる銀河に属しています。アンドロメダ座にある M31（アンドロメダ銀河）は、私たちの天の川銀河のお隣（距離 230 万光年）の銀河です。数十億年後この２ つの銀河は合体し、１つの巨大な銀河になると予想されています。空の暗い場所では肉眼でも光のシミのように見えます。

★赤色巨星（せきしょくきょせい）：Red giant

恒星は、安定して輝く時期が長く続きます。しかし、恒星の内部の水素を使い果たすと、恒星は自身の重力で縮み始め、その際に発生する熱によって外側のガスはさらに外へと膨張し、巨大な星になります。ガスが膨れると表面の温度が低くなるため、赤色に見えます。ガーネット・スターとも呼ばれる、ケフェウス座のμ（ミュー）星は、このような赤色超巨星と考えられており、直径は太陽の 1400 倍も大きいことが観測されています。